



## Surprises Living on the Other Side of the World. Kent Kitagawa

In a blink of an eye, close to half a year has passed since moving from Canada to Japan. Living in Japan there are many surprises you experience. In this Koho article I would like to take a second to share some of surprises that I experiences in Japan with you.

First, August 15th 7:00 am, this was like any other day and I was just about finished preparing breakfast around this time. As I was about to begin eating my breakfast an alarm goes off. The alarm was roaring and continued for 30 seconds although seeming to last for eternity. At the time, I did not know what this alarm indicated and have never heard an alarm this loud go off in Canada. Confused I hid under the table in utter fear, the alarm turned off and everything was back to normal. Later I found out that these alarms were tests to make sure that they were functional. Since this time, the alarm has never failed waking me up for work on time.

The other experience I would like to share is an experience at the convenience store during this winter. As I pulled into the convenience store, I notice that there were many cars running without anyone inside. I took a second to make sure, no one was stealing the cars but quickly realized that there is no way for me to know who owned the cars. 'Test them about their car' I thought, this was never going to work. After giving up I was just left surprised and nervous after my visit to the convenience store.

### 【ちよつと豆知識】宮地晶子

shareという言葉が出ました。「共有する」と訳しました。昔は生徒にこの言葉の感覚を説明するのが難しかったのですが、今では日常的に「ピザをシェアする」(分け合う)「部屋をシェアする」「シェアハウス」などと使われるようになり、ぐっと説明が楽になりました。

### 地球の反対側に住んで驚いたこと ケント・キタガワ

カナダから移住して、瞬間に半年が過ぎました。いざ住んでみたら、びっくりすることがいっぱいです。今回は、私が驚いたことを少し皆さんと共有したいと思います。

一つ目は8月15日の朝7時のこと。いつもと変わらないその日、僕は、朝食の支度を終えるところでした。そして食べようとしたまさにその瞬間、サイレンが鳴り出したのです。鳴り響くこと30秒間、でもその時は永遠に続くかと思いました。理由も分からないし、カナダでは、そもそもそんな大きいサイレンを聞いたことがありません。恐怖のあまり、慌ててテーブルの下に隠れましたが、サイレンが鳴り止むと、なにかか

も正常に戻りました。あとで、これはサイレン機能のテストだと分かりました。このサイレン目覚ましのおかげで、それ以来仕事に遅れたことはありません。

もう一つ、皆さんにお話したい経験は、この冬のコンビニエンス・ストアでの出来事です。駐車場に入って行った時、エンジンがかかっているたくさんの無人の車を発見したのです。車泥棒がないか確認しよう、としましたが、考えてみたら持ち主を知る術がありません。「本人の車か確かめないと…」と思いましたが、うまく行くはずありません。ただただ驚いて不安な気持ちのままコンビニから帰ったのでした。

(訳:宮地晶子)

英語教育指導員 宮地晶子の

## エイゴノマナビカタ

第157回

### Yes, a little.

最近イタリア旅行に行ってきた知人の話です。旅行中、「Can you speak English?」と聞かれて「Yes, a little.」と返事をしたそうです。するとその度に「ああ、日本人だね」と言われたとか。なぜそう思われたのか。私の頭の中をよぎったのは英会話のテキストです。

日本の英会話のテキストは、なぜか判で押したように「Can you speak English? (英語話せますか)」「Yes, a little. (はい、少し)」の会話が載っているのです。だからもはや条件反射

で、みんなそう答えてしまうんじゃないかと思えます。

日本人の性質もあります。だいたい日本人は謙虚過ぎる。実は英語で話せるのに、奥ゆかしく「ええ、少し」と答える人のなんと多いことか。身に覚えがありませんか? でもこれ、外国の人には評判が良くない、とご存じでしたか。

「ええ、少し」と返事が返ってきた段階で、相手は「あまり話しかけてはいけないということだな」「英語で話し続けるのは失礼に当たるな」と考えるのが普通だと聞きました。

だから「ええ、少し」と答えておきながら、実はけっこう話せたりしたら、「なぜ、嘘をつくんだろう。私とは話がしたくないということか」と思われているしまうわけです。こちらにはなんの悪意もないのに、マイナスからのスタートになってしまうことか。

流ちょうに話せなくてもいいのです。ひとまず「Yes!」と聞いてみせましょう。「Yes, go ahead. (ええ、どうぞ)」なら、なお良い。日本には英語が溢れています。いざとなったら、カタカナ語でも結構通じます。国際社会は遠慮したら負けです。